IDMの教育プログラム
及び
サービス内容のご紹介

企業：Laske and Associates LLC
住所：50 Woodbury St, Gloucester, MA 01930, USA
電話：978-879-4882
HP：interdevelopmentals.org

代表者：オットー・ラスキー（Otto Laske）
ここではIDMとして知られているInterdevelopmental Instituteの学習プログラムの概要をご紹介いたします。世界中の様々なプロフェッショナルがこのオンライン学習プログラムで学び、学習内容を特に組織における人材育成・管理に活用しています。

Copyright © Laske and Associates LLC

内容

IDMの概要 3
IDMが掲げる5つのプロフェッショナル・ゴール 4
IDM の教育・資格プログラム 5
CDF 入門(GATEWAY プログラム) 5
プログラム 1 6
プログラム2 7
プログラム3 9
プログラム4 10
プログラム5 12
リサーチ・プログラム 14
出版サービス 15
コンサルテーション・プログラム 16
連絡先及びオットー・ラスキーについて 17

Copyright © Laske and Associates LLC

IDM の概要

21 世紀初頭の現代社会はこれまでの思考レベルでは到底解決できないような社会的・科学的な問題を私たちに突き付けています。グローバル環境問題あるいは先進国と発展途上国との関係などにおいて成人以降の心の発達理論の知見を活用する必要性はかつてないほど高まっています。一体、発達理論はそれらの問題に対してどのように貢献することができるのでしょうか？

Interdevelopmental Institute(IDM)は成人以降の心の発達理論をそれらの問題に適用する方法をこれまで探求してきました。そうした探求の成果に基づいて IDM はオンラインの学習プログラム及びコンサルティング・サービスを提供しています。IDM は成人以降の心の発達理論の研究成果を現実世界の様々な問題に活用することを目的としてオットー・ラスキー(Otto Laske)によって 2000 年に設立されました。しかしこの 30 年間はそうした発達理論に基づいた研究成果は個人及び組織に注目されることはほとんどありませんでした。それ故に発達理論に基づいた研究成果は多くの人達・組織にとって「隠された領域（hidden dimensions）」となっていたのです（2005 年及び 2008 年に『隠された領域の測定(Measuring Hidden Dimensions)』というタイトルで人間の心の発達に関する 2 部構成の書籍が出版されている）。

心の発達に関して理解を深めたい者及びクライアントの心の発達支援に携わる者が成人以降の心の発達理論の研究成果を理解し、それらを各々の分野において活用できるようにすることを目的とし、ラスキーは 1998 年から 2001 年にかけて「構造主義的発達論のフレームワーク(Constructive Developmental Framework: CDF)」という方法論を提唱しました。CDF は「現在クライアントはどの成長段階にいるのか？」という質問に基づいて人間の心の発達に関する三つの相互に関連し合った理論及びクライアントの成長を支援するための実践方法を提供します。

CDF は 2000 年以降 IDM が提供してきた社会的・感情的発達、認知的発達、及びヘンリー・ミュレー(Henry Murray)のパーソナリティー理論を基にした「欲求/圧力質問票」を用いた教育プログラムを基礎にして確立されました。これら三つのコース—社会的・感情的発達理論、認知的発達理論、欲求/圧力質問票を用いた測定メソッド—は IDM の全ての教育プログラム、コンサルティング・サービス、及び研究の理論的基礎を構成しています。

IDM の授業は全てオットー・ラスキーによって行われ、対応可能な言語は英語、ドイツ語、フランス語、及びスペイン語です。IDM の生徒の構成は非常に多国籍であり、大部分はヨーロッパ及びオーストラリアの生徒で構成されています。

IDM の協賛者は下記の通りです。ブルーノ・フリッチャーズ教授、ヤン・デ・フィッシュ（メッヘレン：ベルギー）、エリザベス・ギューム（パリ）、ダニエル・アルバレス・ラマ（サンチアゴ・デ・コンポステラ：スペイン）、レイナー・フォン・レオプレッチング（ブリュッセル）、ニコラス・シャノン（ロンドン）、アイバ・ブルデルジャ教授（シカゴ）、カリン・ウルマー（ブリュッセル）、そして IDM の全ての卒業生たち。マティアス・レーマン(admin@interdevelopmentals.org)は IDM の技術的サポート及び窓口業務を担当しています。

Copyright © Laske and Associates LLC

IDM が掲げる 5 つのプロフェッショナル・ゴール

25 歳から 100 歳の間の成人が生涯を通じて感情的そして認知的に構造的な変化をし続けるということは成人以降の心の発達理論における非常に重要な発見事項です。この発見事項はプロフェッショナル達が現代社会における労働の観点から自らをどのように定義するかに関わらず、人間に携わる全てのプロフェッショナル・サービスにおいて等しく大切になってきます。

あなたがコーチ、コンサルタント、企業における人事担当者、心理学者、調停者、社会科学者、政策策定者、弁護士などであれば、成人以降の心の発達理論を学習することは非常に有益なものとなります。これは何も新しい理論モデルを適用するということだけに留まらず、1975 年以来洗練され続けている人間の心の発達理論の研究成果に基づいて個人及び組織を発達・変容の支援に役立てることができるのです。人間の心に関する理論・実践技法を学ぶという特性上、IDM の授業は「全て自分自身の心に関すること」を扱います。

IDM が掲げる 5 つのプロフェッショナル・ゴールは下記の通りです。

1. 生涯を通じて起る自分自身の心の成長を理解すること⇒社会的・感情的発達理論及びその実践（キーガン、ウィルバー、ラスキー）

2. 優れた戦略思考家・意思決定者となること⇒テキスト分析を含む弁証法的思考の理論及びその実践（ヘーゲル、マルクス、フランクフルト学派、サルトル、ジャックス、バスカー、バスチーズ、ラスキー）

3. 自分自身及び他者の「自己の振る舞い」、「職務に対する姿勢・取り組み方」、及び「EQ（感情的知性）」についての理解を深めること⇒パーソナリティー理論（ジグムント・フロイト、ヘンリー・ミュレー）

4. 古代ローマ・中世において弁論術と呼ばれていたコミュニケーション技法を習得すること⇒発達測定インタビューの実践（キーガン、バスチーズ、ラスキー）

5. クライアントの意味構築活動段階及び思考の発達段階に応じたフィードバックの方法を学習すること⇒CDF に基づいたケース・スタディー

上記の学習目的を達成するために IDM は 5 つの学習プログラムを提供しています。プログラム 1 から 4 はそれぞれ独立した学習内容になっています（以前の名称で言うと「モジュール A」、「モジュール B」、「モジュール C」、「発達測定インタビュー」）。そしてそれらの 4 つの学習項目を総合的に学習するプログラム 5（以前の名称で言うと「モジュール D」及び「プログラム 2」）。

最も高度な学習内容を扱うプログラム 5 では感情・思考・行動と各々の個人が独自に構築する「リアリティ」との間におけるリンクを明らかにすることに主眼が置かれています。CDF を用いることによってこれらの問題はインタビュー及び質問票に基づいて正確に測定・分析することができます。

Copyright © Laske and Associates LLC

IDM の教育・資格プログラム

CDF 入門(GATEWAY プログラム)

「構造主義的発達論のフレームワーク(Constructive Developmental Framework: CDF)」は社会科学の研究成果に由来する理論であると共に、成人以降の心の発達に関する研究を行うためのリサーチ・ツールであるとも言えます。CDF はハーバード大学におけるコールバーグ学派及び弁証法的思考を探求したフランクフルト学派（ホルクハイマー、アドルノ）の系譜を受け継いでいます。IDM ではそれらの理論・実践を学問の世界に留めておくのではなく、学習者が学問の世界の外において実務的な結果を残せるように指導しています。特に感情的発達段階及び認知的発達段階に焦点を当てた構造主義的な観点に基づいたインタビュー分析及びテキスト分析などが実務的な要求に応えるものです。

こうした試みの基礎はエドガー・シャイン(Edgar Schein)が提唱した「プロセス・コンサルテーション(process consultation)」という先駆的な考えです。これは感情的・認知的・心理学的に仕事に従事する問題解決者の思考プロセス・精神的機能に対するコンサルテーションです。

プロセス・コンサルテーションはコンサルティング及び教育のためのモデルであって、「専門家のためのモデル」でも「医者と患者という関係性におけるモデル」でもありません。その違いはクライアントが自ら問題を解決する責任を有しているという考え方にあります。

オットー・ラスキーの「人間の隠された領域の測定(Measuring Hidden Dimensions)」というタイトルの二冊の書物において、シャインが考慮していなかった思考プロセス・精神的機能の発達的な側面における発見事項を紹介し、シャインのモデルはより洗練された形になりました。シャインのモデルを洗練する際にラスキーは以下の項目を区別しました。
・社会的・感情的な思考プロセスあるいは「意味構築活動」
・認知的な思考プロセス
・精神的機能あるいは「欲求と圧力のバランス」
これら三つの領域は無意識的な性向及び意識的な意思決定に基づいた現実世界の行動を規定する「価値判断・行動の枠組み(Frame of Reference)」を定義しています。

CDF の入門プログラムではそれらの考え方を取り扱います。入門プログラムではプロフェッショナルの価値判断・行動の枠組みの観点から人間の思考に関する基礎及び研究成果を紹介していきます。そして入門プログラムでは仕事においてだけではなく人生における人間の心の在り様に関する全体像を提供します。

Copyright © Laske and Associates LLC

プログラム 1

コーチ、心理学者、教育者、メディエーター（仲介・調停者）、及び社会科学者のためのプログラム：成人以降の心の発達理論の研究に基づいた自分及びクライアントの心の発達を理解する

現実世界は個人の意味構築活動のレベルに応じて階層構造を形成しています。各々の発達段階は決して静的なものではなく、意識の重心構造を中心とした非常にダイナミックな思考の動きであり、絶えまなく動的な運動を繰り返しています。社会的・感情的発達構造は個人の潜在能力そして仕事における機動的な能力を決定する要因となります。各々の発達段階は人間の意図、感情、目的、自己正当化、他者との関係性、及び間接的には行動を決定する「自我中心性」の質的差異を示します。しかし、意味構築活動のレベルに差異があったとしても人間は同等の権利を有していることを忘れてはいけません。

意味構築活動の質的差異を明確にすることによって「人」に関係する全てのプロフェッショナル・サービスに従事する方達は大きな利益を享受することができます。他者の発達段階に関する実証的なデータを得ることによってプロフェッショナルはクライアントの現在の発達段階に応じた介入方法を選択することが出来ます。そうすることで始めてプロフェッショナルはクライアントを未知な存在と捉えることなく発達段階に応じた理解をすることができるのです。

プログラム 1 では人間の生涯に渡る意味構築活動の発達プロセスを学習していきます。また、プログラム 1 では発達測定インタビューの基礎及びスコアリング（スコア測定）技術も学習します。このプログラムは IDM が提供する「社会的・感情的発達理論に基づいたコーチングの資格」を取得する第一歩となります。

Copyright © Laske and Associates LLC

プログラム 2

コンサルタント、コーチ、人材育成・管理者、教育者、コミュニケーションの専門家、政策策定者のためのプログラム：優れた戦略思考家・意思決定者となるには

抽象的な思考をする際に個人の間で大きな相違を生むのは概念の用い方にあります。それらの相違は社会的・感情的発達段階によるものというよりも認知的発達段階によるものであると考えられます。もちろん認知的発達と社会的・感情的発達は相互に影響し合っているため両者を完全に切り離すことはできませんが、発達論の歴史を振り返ってみても両者を各々独立に評価・分析することが求められています。

ラスキーの認知的発達理論では(Vol 2 “Measuring Hidden Dimensions, 2008)、個人の生涯に渡る認知的発達に関して下記の四つの区分をすることが有益としています。

1. **良識**
2. **理解**
3. **理性**
4. **実践知**

それぞれの区分において個人の思考の特徴は顕著に異なり、そこで語られる内容も非常に異なってきます。

1. **良識段階**（生誕から 10 歳ぐらいまで）において個人は五感に従い、抽象的な概念を理解することは困難です。
2. **理解段階**（10 歳から 25 歳まで）において個人は現実世界を構築するための道具として多数の抽象概念を獲得します。ここで気を付けなければならないのはこの段階の成長度合いは個人によって様々であり、物事を「理解する」ことは決して静的なものではないということです。また、論理的思考が成熟する 25 歳を迎える前においても理性段階への移行（多くの場合後期青年期）が徐々に始まってくることにも注意が必要です。そしてさらに重要なことは、仮に認知的発達が理性段階へ完全に移行したとしても形式論理的能力は消滅してしまうわけではなく、理性に「超越」される形でより包括的かつシステム的な思考である「弁証法思考」を行うためにも後の発達段階に引き継がれていきます。
3. 理解段階から**理性段階**（18 歳以降）への移行期はバサチーズ(Basseches)の理論を用いると四つの段階に区分することができます。それらの段階は個人が用いることができる思考様式(thought forms)の数によって異なり、複雑な思考や行動計画を作り上げるためのそうした思考様式の強度によって異なります。
4. **実践知段階**（70 歳以降から人生の終焉まで）はラスキーの用語であり、理性段階 4 に到達して初めて形式的論理と弁証法的論理が統合され、この統合を完全に果たした時に実践知段階へと移行します。この段階へ思考を発達させることのできる人は非常に少数です。また実践知段階では思考と感情のバランスが完全に均衡化されています。

プログラム 2 では CDF の一つの大切な要素である DTF、すなわち「弁証法的思考様式のフレームワーク(dialectical thought from framework)」を学習します。このプログラムでは認知的発達の理論や測定方法に重点を置くというよりも、弁証法的思考の技術を学習することに焦点が当てられています。

このプログラムの学習は主に「Measuring Hidden Dimensions」の第二巻に掲載されている弁証法的思考マニュアルに基づいて学習が進んでいきます。これまで成人以降の認知的発達に関心のなかった人及びそれに精通していない人でもこのプログラムを通じて自分自身の弁証法的思考を発達・洗練

Copyright © Laske and Associates LLC

させることができます。弁証法的思考は現実世界を徹底的に静的なものとして捉える形式論理的思考を超越した思考方法なのです。

もちろんながら高次の弁証法思考あるいは変容的かつ非常に深い思考法を身に付けることはどなたにとっても有益ですが、そうした思考は特にリーダーやマネジャーにとって価値のあるものとなります。こうした理由に基づいて IDM は人間の認知的発達に関する二つの資格プログラムを提供しています。

- 弁証法思考及びテキスト分析
- 戦略策定・遂行に伴う統合的思考法

一つ目の資格プログラムでは一般に批判的思考（クリティカル・シンキング）と呼ばれる思考法を学習し、学習者それぞれの分野に批判的思考を活用できるようになることを目的としています。

一方、二つ目の資格プログラムは主にシニア・マネジャーのために提供され、組織におけるリーダーシップに焦点が置かれています。また統合的思考法は政策策定の際にも非常に大切になってくるため政治家にも適した学習プログラムです。

どちらのプログラムも実践的な内容かつ自己内省的なプロセスが盛り込まれており、これまでの自分の思考法に限界を感じている方、及び 新しい思考法を獲得したいと望んでいる方に適したプログラムです。

Copyright © Laske and Associates LLC

プログラム 3

心理学者、コーチ、コンサルタント、コーチのためのプログラム：「自己の振る舞い」、「仕事に対する姿勢」、及び「感情的知性(EQ)」に対する精神分析学的観点に基づいた理解

私達の人生は社会的・感情的発達及び認知的発達の絶え間ない成長プロセスと言えますが、「キャラクター」や「パーソナリティー」と私達がしばしば呼ぶものは主に幼少期に形成され、それは私たちの発達に大きな影響を与え、時として発達を妨げるものとなってしまうことを忘れてはいけません。たとえ自己の振る舞い、仕事に対する姿勢、そして対人関係（感情的知性）を幾分変えることができたとしても、私達の行動を劇的に変えようとする際には多くの障害が存在するのです。これはなぜなら私たちの行動は無意識的な欲求に基づいているからであり、意識の外にあるものは認識できないからでもあります。

しかしながら、発達論から得られた洞察とともに、ある個人の精神分析学上の強み・弱みに対する洞察を得ることができればそれはコーチ、コンサルタント、マネジャー、メディエーター、心理学者など（これらを総称してプロセス・コンサルタントと呼ぶ）にとって非常に有益なものとなるのです。個人の内面から生じる心理的圧力あるいは組織・社会からの心理的圧力、及び個人の無意識的な欲求を詳細に分析・評価することによって、プロセス・コンサルタントはその個人に対して介入的方法を取る際に必要となる実用的なデータを得ることができるのです。

プログラム 3 では主にハーバード大学のヘンリー・ミュレー(Henry Murray)のパーソナリティー理論及び無意識の欲求に関する理論を学習していきます。そしてクライアントのパーソナリティー及び無意識の欲求をより良く理解するための効果的な分析ツールであるモリス・アダーマン(Morris Aderman)の「欲求/圧力質問票」についても学習していきます。

プログラム 3 は IDM の行動的コーチングの資格取得プログラムの一部でもあります。

Copyright © Laske and Associates LLC

プログラム 4

「人」に関わる全てのプロフェッショナルのためのプログラム： 発達測定インタビューを学習することによってより良いコミュニケーターとなること

発達測定インタビューとは個人の社会的・感情的発達段階及び認知的発達段階を測定するためのインタビューを指します。

発達測定インタビューを実施するにあたってインタビューを行う者には二つの異なるコミュニケーション技法が要求されます。一つは相手の発達段階を理解するための聴く技術であり、もう一つは相手の発達段階を理解するための思考能力です。これらはインタビューを受ける者の思考の流れを理解するために必須の技術・能力なのです。

認知的発達測定インタビュー
認知的発達測定インタビューの熟練者になることはより優れた弁証法的思考の持ち主になることと同義です。この目標を達成するためにはプログラム 2 においてオットー・ラスキーが教示する「弁証法的思考のフレームワーク(詳しくは「Measuring Hidden Dimensions 第二巻参照」)」に習熟する必要があります。

認知的発達測定インタビューを行う上でのタスクはインタビューを受ける者が抽象的な概念をどれだけ操作することができるのかという思考の流動性を測定することにあります。インタビューをする者はクライアントの思考構造を解明しようとする強い意志が必要となり、インタビューを通じてクライアントが既存の方法とは異なる新たな方法で思考できるように支援することも要求されます。そして認知的発達測定インタビューは三つの要素から構成されます：自己空間、任務空間、及び組織空間。実際のインタビューではそれぞれの思考空間においてある特定の文脈が設定され、その文脈に基づいて種々の質問に答えるように導いていきます。

インタビューは録音・筆写の上、ラスキーの弁証法的思考のフレームワークに基づいて評価・分析が行われます。分析の結果として得られる認知的発達スコアはクライアントの現在の弁証法的思考能力を表します。このインタビューの最中は感情的な要素がそれほど入り込むことはなく、インタビューを行う者とクライアントとの間にそれほど強い親密性が求められていないので一般的に社会的・感情的発達測定インタビューよりも先に行われます。

思考は人間がリアリティを構築する際の重要な手段であり、それは全ての感情・行動・意思決定などに広く影響を及ぼすものであるため、個人の認知的発達段階を理解することはその個人が私生活及び仕事において目標を達成すること、意思決定をすること、及び戦略・計画を構築することの大いなる助けとなります。

社会的・感情的発達測定インタビュー
社会的・感情的発達測定インタビューの熟練者になるためには他者の感情に共感できるようになることと同時にプログラム 1 で学習する社会的・感情的発達に関する理論に習熟することが大切になってきます。インタビューの実施者は単にクライアントの感情を理解するだけではなく、その感情がどのように生み出されているのかを理解する必要があります。インタビューは 10 個の質問内容から 2~3 個をクライアントに選択してもらい、クライアントは自由にその質問に回答します。インタビューを行う者に求められるのはクライアントの感情を生み出す意味構築活動の発達段階に対して仮説を立て、それをインタビューの中で絶えず検証していく作業です。

Copyright © Laske and Associates LLC

インタビューにおいて、インタビューを行う者はクライアントと感情レベルでコミュニケーションを図ると共に、クライアントの発達段階に対する仮説検証・修正を繰り返しながらクライアントの発達段階を探求していきます。インタビューを行う上で大切なことはクライアントの思考の流れ(train of thought)に従うことであり、それは単に意識を集中させることだけではなく発達構造を理解するための特殊な聴く技術が求められます。一時間に及ぶインタビューは録音・筆写され、分析作業が行われた後、インタビューの実施者はクライアントの現在の社会的・感情的発達段階の大きな見取り図を獲得することができます。このように体系的な分析が行われた後、インタビューの実施者は適切かつ効果的なフィードバックをクライアントに提供し、それはクライアントの目標達成や深い自己認識を得る際の助けとなります。

社会的・感情的発達測定インタビューは録音・筆写された後、ラスキーによってより洗練されたキーガンの発達理論に基づいて評価されます。キーガンの理論に改善を施した点は意識の重心構造に隣接する段階に対する振れ幅を正確に計測できるように発達リスク及び発達ポテンシャルを考慮し、「リスク・ポテンシャル指標」を設定したことです。分析結果はクライアントの現在の意味構築活動の発達段階のスコアを提示します。

社会的・感情的発達測定インタビュー及び認知的発達測定インタビューは異なるコミュニケーション・スタイル及びツールが要求されますが、どちらも分析作業を越えてインタビューを行う者自身のコミュニケーション能力を高めてくれるのです。発達測定インタビューはインタビューを実施する者に対して自分自身の一瞬一瞬のメンタル・プロセスに気付くことを要求するため、それは高いレベルでの発話及び傾聴に対する認識を喚起することにつながります。

こうした理由から発達測定インタビューに精通した者は下記の事柄を行うことができるようになります。

- 概念だけではなく感情に基づいて戦略的に会話を発展させることができる。
- 会話の目的に応じて社会的・感情的発達の視点に立つことができ、認知的発達の視点に立つことも柔軟に行える。
- クライアントが現実世界を構築する方法及びクライアントの自己認識に対する深い理解を獲得することができる。
- クライアントの意思決定、アクション・プランの設計・実行、及び戦略策定・実行の支援を行うことができる。
- クライアントが自分自身の思考自体を思考することができるように、そして概念を様々な状況にうまく適用できるように支援を行うことができる。

間接的な結果として発達測定インタビューを学習する者は人に何かを教える際、コーチングを行う際、チームを統括する際、及びリーダーシップを発揮する際に非常に有益となる会話ツールを獲得することができるのです。またそうした実務的な側面のみならず発達測定インタビューを学習する者は成人以降の心の発達の研究分野における効果的なリサーチ・メソッドを獲得することもできるのです。

プログラム 4 は優れたコミュニケーターになるための資格取得プログラムの一部でもあります。

Copyright © Laske and Associates LLC

プログラム 5

個人（組織）の行動を解明する実証的なデータを得るための社会的・感情的発達及び認知的発達測定プログラム

人間及び複雑なシステムは絶えず発達する存在です。それらの発達は一見すると非常に捉えどころのないものに映ります。しかし、社会的・感情的発達、認知的発達、及び心理的欲求の三つの差異を正確に捉えることによって、人材育成・管理のプロフェッショナルは人間の発達に関する大きな見取り図を獲得することができるのです。コーチング、コンサルティング、人材育成・管理、及びサイコセラピーなどに携わる専門家は発達測定ツールを用いることによって得られたデータを直接的に活用しようとも間接的に活用しようともそれがクライアントの目標達成や仕事を通じたクライアントの自己実現を支援する大きな手助けとなることに気付くでしょう。

もちろんながら CDF の三つの要素―社会的・感情的側面、認知的側面、及び精神分析学的側面―をそれぞれ別個に活用したとしてもそれは有益ですが、それら三つの要素を全て考慮して初めて人間という非常に複雑な存在に対する包括的な見取り図を獲得でき、クライアントを適切に支援する準備が整います。

IDM は学習者に対して発達測定ツール及び精神分析学的な分析手法を習得してもらうために実際にボランティア・クライアントを見つけ、一つ以上のケース・スタディーを書き上げることを要求しています。ケース・スタディーでは二つの発達測定インタビュー及び心理バランスを分析するための質問票が用いられます。ケース・スタディーにおいて学習者はクライアントの現在の発達段階及び精神分析学的構造を適切かつ包括的に評価・分析できる能力を示すことが要求され、そしてクライアントを適切に支援することのできる能力も示すことが求められます。

プログラム 5 は実務的にも学問的にも IDM において最も高度なプログラムです。様々な国に在住する学習者がこのプログラムを受講するためこのプログラムは国際的であり、成人以降の心の発達理論で用いられるリサーチ・メソッドが盛り込まれた内容のため非常にユニークであるとも言えます。

プログラム 5 に進むためには下記のいずれかのステップを経る必要があります。

1. プログラム 1 及び 4 を修了する。
2. プログラム 2 及び 4 を修了する。
3. プログラム 3 を修了する。
4. プログラム 1～4 全てを修了する。

CDF の概要を学習するプログラム(Gateway program)は必須プログラムではありませんが、成人以降の心の発達理論に馴染の無いプロフェッショナルには強く勧めています。

プログラム 5 はクラスにおける対話・議論を非常に大切にしています。各々の学習者は自分のクライアントのケース・スタディーを教室（オンライン・テレビシステム上）で共有し、生徒同士そしてオットー・ラスキーと対話・議論を行います。発達測定インタビューは特殊な分析シートを用いて評価・測定が行われ、学習者はその分析シートを教室に持ち寄り、より正確な評価・分析を目指して議論を行います。もちろんながら発達測定インタビューの分析結果だけではなく、精神分析学的なデータについてもしばしば議論が行われます。

このプログラムを指導するオットー・ラスキーは学習者全員で構成されるアクション・ラーニング・チームのコーチとしての役割を果たし、参加者各位は学習チームの一員として分析結果を適時に共有することやフィードバックを適時に行うことが求められます。

Copyright © Laske and Associates LLC

各回 2 時間に及ぶ 8 回のクラス終了後、学習者は IDM のディレクターにケース・スタディーを提出します。そしてオットー・ラスキーから発達測定インタビュー及び質問票の評価・分析に関するフィードバックを受けた後、クライアントにフィードバックを行うことが許可されます。

プログラム 5 は発達測定のプロフェッショナルになるための資格取得プログラムの一部です。三つのケース・スタディーを書き上げることで**発達論に基づいたマスター・コーチの資格**を取得することができます。

Copyright © Laske and Associates LLC

リサーチ・プログラム

IDM のリサーチ・プログラムは IDM の学習プログラムの集大成となるプログラムです。学習者は特定のクライアントまたは組織に対して CDF の方法論を適用し、ケース・スタディーを書き上げます。そして学習者は IDM と協力する形で論文を執筆します。

IDM の現在の提携組織はスペインにある通信制大学の UNED、マレーシアにあるプロフェッショナル教育を目的とした大学の Universiti Teknologi MARA です。

IDM と協力して研究を進めて頂ける研究機関とのネットワークを日々強化しています。

Copyright © Laske and Associates LLC

出版サービス

IDM は IDM Press という出版社を所有しています。

書籍形式（ハード・コピーあるいは電子書籍）の全ての教材は IDM Press より発行・出版されます。そして現在オットー・ラスキーの二冊の著書がフランス語、スペイン語、ドイツ語に翻訳されている最中です（日本語への翻訳も進行中）。

下記の二冊の書籍がラスキーの主要著書です。

1. Measuring Hidden Dimensions: The Art and Science of Fully Engaging Adults（第一巻）
2. Measuring Hidden Dimensions of Human Systems: Foundations of Requisite Organization（第二巻）

上記二冊の翻訳
・ドイツ語（翻訳済み）：翻訳者 Rainer v. Leoprechting
・フランス語（翻訳中、2012 年出版予定）：翻訳者 Annie Katz
・スペイン語（翻訳中、2013 年出版予定）：翻訳者 Daniel Alvarez Lama & Maria de Valle Garcia Bersabe
・イタリア語（翻訳中、2014 年出版予定）：翻訳者 Macro DiMonte & Ida Sirolli
・日本語（翻訳中、2015 年出版予定）：翻訳者 加藤洋平

上記二冊は IDM のウェブページから購入ができます。また下記のページにてラスキーの多数の論文を読むことが可能です。

書籍案内：http://www.interdevelopmentals.org/publications-idm-press.php
論文紹介：http://www.interdevelopmentals.org/publications-papers.php

Copyright © Laske and Associates LLC

コンサルテーション・プログラム

IDM のコンサルテーション・プログラムは先ほど紹介したリサーチ・プログラムと密接に結びついています。コンサルテーション・サービスは教育、コーチング、企業組織における人材育成など幅広い分野を対象に行っています。

特に現在力を注いでいるのは大学を中心とした教育機関が成人以降の心の発達理論及びその研究成果をカリキュラムに取り入れる際のコンサルテーションです。

Copyright © Laske and Associates LLC

連絡先及びオットー・ラスキーについて

上記に紹介したサービス内容に関してご質問等ございましたら何なりと下記の担当者（加藤洋平）に連絡をしていただければ幸いです。また IDM の教育プログラムに関する「無料オンラインセミナー」を日本人の方限定に提供していますのでセミナーにご興味を持たれた方も合わせて加藤にご連絡して頂ければと思います（このセミナーは代表者であるラスキーが英語で行います）。

加藤 洋平（かとう・ようへい）
一橋大学商学部卒業後、デロイト・トーマツで国際税務コンサルタントの仕事に従事。現在、ジョン・エフ・ケネディ大学統合心理学科修士課程にてインテグラル理論及び幅広く心理学を学習している。また、インテグラル・コーチング・カナダより国際コーチング連盟認定の「インテグラル・コーチング」の資格を取得し、現在インテグラル・コーチングの活動にも従事している。IDM の Gateway プログラムを終了し、現在はオットー・ラスキーに師事しながら成人以降の心の社会的・感情的発達、認知的発達、及び精神分析学的側面に関する学習を行っている。
Email: yoheikatowwp@gmail.com
Web site: http://integral-coaching-yoheikato.jimdo.com/

オットー・ラスキー（**Otto Laske: PhD, PsyD, C.A.S.**）
Interdevelopmental Institute(IDM)の設立者かつ代表。コーチ、コンサルタント、セラピストなどを対象に CDF に基づいた教育サービス及び企業に対するコーチング活動を行っている。ラスキーはフランクフルト大学にてアドルノ及びホルクハイマーの下で人間の認知的発達について学び、ハーバード大学にてロバート・キーガンの下で人間の社会的・感情的発達について学んでいる。また、音楽に関しても造詣が深く、作詞・作曲家であるとともに彼が 1970 年代に確立した「認知音楽学 (cognitive musicology)」に関する論文も多数存在する。ここ 15 年間は発達論及び弁証法的思考に基づいた組織における職務理論及プロセス・コンサルテーション理論の確立のための研究活動及び実践に従事している。
Email: otto@interdevelopmentals.org
IDM website: http://www.interdevelopmentals.org/

Copyright © Laske and Associates LLC